

NSG

GROUP

NSG グループ

2020年3月期通期決算報告

(2019年4月1日～ 2020年3月31日)

日本板硝子株式会社
2020年5月22日

森 重樹

代表執行役社長兼CEO

諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

目次

1. 本日の概要
2. 2020年3月期通期 決算概要
3. 2020年3月期通期 事業状況
4. 新型コロナウイルス感染症の事業への影響
5. 2021年3月期の見通し
6. 今後を見据えてのアクション
7. まとめ

本日の概要

2020年3月期

- 為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、第4四半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受ける一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
- 建築用ガラス事業（アジア）の収益改善施策として、千葉およびマレーシアのフロート窯（各1基）休止を決定
- のれん減損等の個別開示項目費用の計上により、修正予想対比赤字が拡大
- 期末配当は無配と決定

2021年3月期

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けているが、5月以降は徐々に回復を想定
感染防止策を徹底しながら迅速な再開へ向けて準備
- 当面の流動性は確保。追加の流動性資金の調達に向けて協議中
- 現金支出の最小化とともに、追加改善施策に取り組み
- 2021年3月期業績予想は、新型コロナウイルス感染症の影響を見極め、可及的速やかに発表予定

中期経営計画

- 「コロナ後の世界」の変化を見据え、中期経営計画は再検討後、時期を見極め発表予定
- 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題。中期的にはアセットライトな事業体質への変革

2020年3月期通期 決算ハイライト



為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、Q4はCOVID-19の影響を受ける

売上高	5,562億円 (前年比△9%)	為替変動の影響に加え、主要地域の事業環境悪化により減少 為替影響を除けば前年比5%減少
無形資産償却前 営業利益	230億円 (前年比△41%)	建築用は欧州を中心に事業環境のさらなる悪化と稼働率の低下 自動車用は欧州を中心に数量減に加え、COVID-19影響で 減少拡大 一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
親会社所有者に 帰属する当期損失	△189億円	営業利益、持分法投資利益の減少に加え、COVID-19関連や のれん減損を含む個別開示項目費用の計上により赤字拡大
フリー・キャッシュ・フロー	△264億円	大幅マイナスだが、当初想定通り、戦略投資（△413億円）を 除けばプラス
普通配当	-	2020年3月期末の普通株配当は遺憾ながら見送り

連結損益計算書



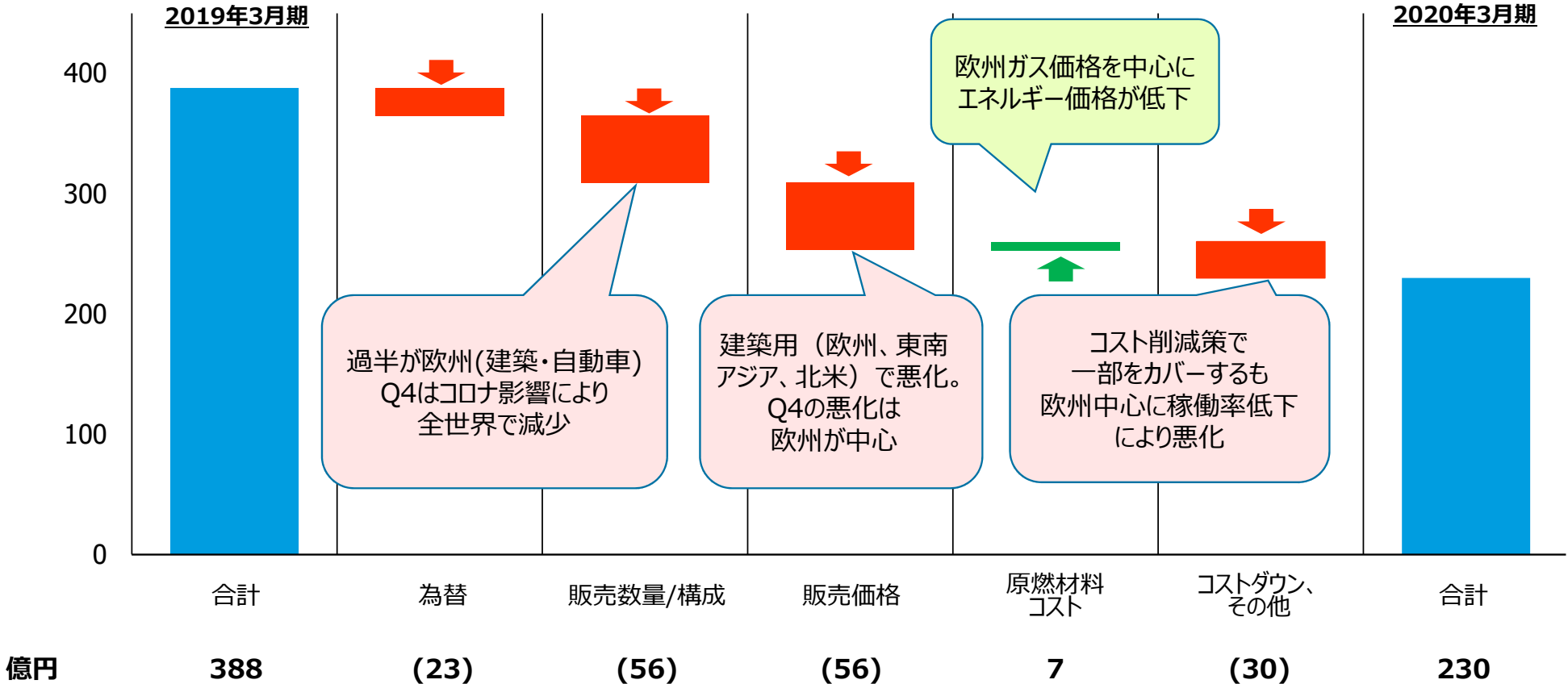
営業利益はほぼ修正予想に沿った着地。一方で個別開示項目費用が増加

(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 修正予想 (Q3決算時)	2020年3月期 実績	前年比 増減	予想比 増減
売上高	6,128	5,600	5,562	(566)	(38)
無形資産償却前営業利益	388	230	230	(158)	0
償却費 *	(19)	(20)	(18)	1	2
営業利益	369	210	212	(157)	2
個別開示項目	(71)	(70)	(240)	(169)	(170)
金融費用 (純額)	(133)	(130)	(118)	15	12
持分法による投資損益	62	20	11	(51)	(9)
税引前利益/(損失)	227	30	(135)	(362)	(165)
当期利益/(損失)	144	(20)	(175)	(319)	(155)
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	133	(30)	(189)	(322)	(159)
EBITDA	647	-	550	(97)	-

*: ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

営業利益差異分析 (無形資産償却前)

為替変動と事業環境悪化に伴う数量減、価格下落および稼働率の低下



個別開示項目

第4四半期に196億円の費用を計上

単位：億円

	2019年3月期	2020年3月期
子会社及びジョイント・ベンチャーの売却による利益	-	13
有形固定資産の売却による利益	-	11
事業閉鎖に伴う換算差額の実現益	7	-
のれん及び無形資産の減損損失	-	(117)
リストラクチャリング費用	(44)	(64)
有形固定資産等の減損損失及び減損損失戻入益	(8)	(43)
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による設備休止に係る費用	-	(22)
設備休止に係る費用	(10)	(15)
退職給付に係る負債の過去勤務費用	(14)	-
その他	(2)	(3)
	(71)	(240)

自動車用（欧州、その他地域）
のれん、無形資産の
減損損失

千葉1号窯休止関連
（40億円、3/31開示）
マレーシア1号窯休止決定
（3億円）

ロックダウンに伴う設備休止など

連結キャッシュ・フロー

フリー・キャッシュ・フローは、当初想定通り戦略投資を除けばプラス

単位：億円

	2019年3月期	2020年3月期	増減
当期利益/(損失)	144	(175)	(319)
法人所得税	84	40	(44)
減価償却費	279	348	69
減損損失	19	171	152
資産売却益	(2)	(25)	(23)
持分法による投資利益	(62)	(11)	51
法人所得税支払額	(54)	(56)	(2)
その他	(68)	(74)	(6)
営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）	340	218	(122)
運転資本の増減	(50)	87	137
営業活動によるキャッシュ・フロー	290	305	15
有形固定資産の取得	(281)	(609)	(328)
資産売却収入	5	39	34
その他	(5)	1	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	(281)	(569)	(288)
フリー・キャッシュ・フロー	9	(264)	(273)
戦略投資を除くフリー・キャッシュ・フロー	60	149	89

主要財務指標 (KPI)

ネット借入はIFRS16号の適用や戦略投資などにより増加
 自己資本は為替換算差額、当期損失、A種種類株式の償還などにより減少

	<u>2019年3月末</u>	<u>2020年3月末</u>
ネット借入 (億円)	3,177	3,902^{*1}
ネット借入/EBITDA	4.9x	7.1x
ネット借入/純資産比率	2.4x	4.4x
自己資本比率	16.2%	9.6%
	<u>2019年3月期</u>	<u>2020年3月期</u>
営業利益率 ^{*2}	6.3%	4.1%

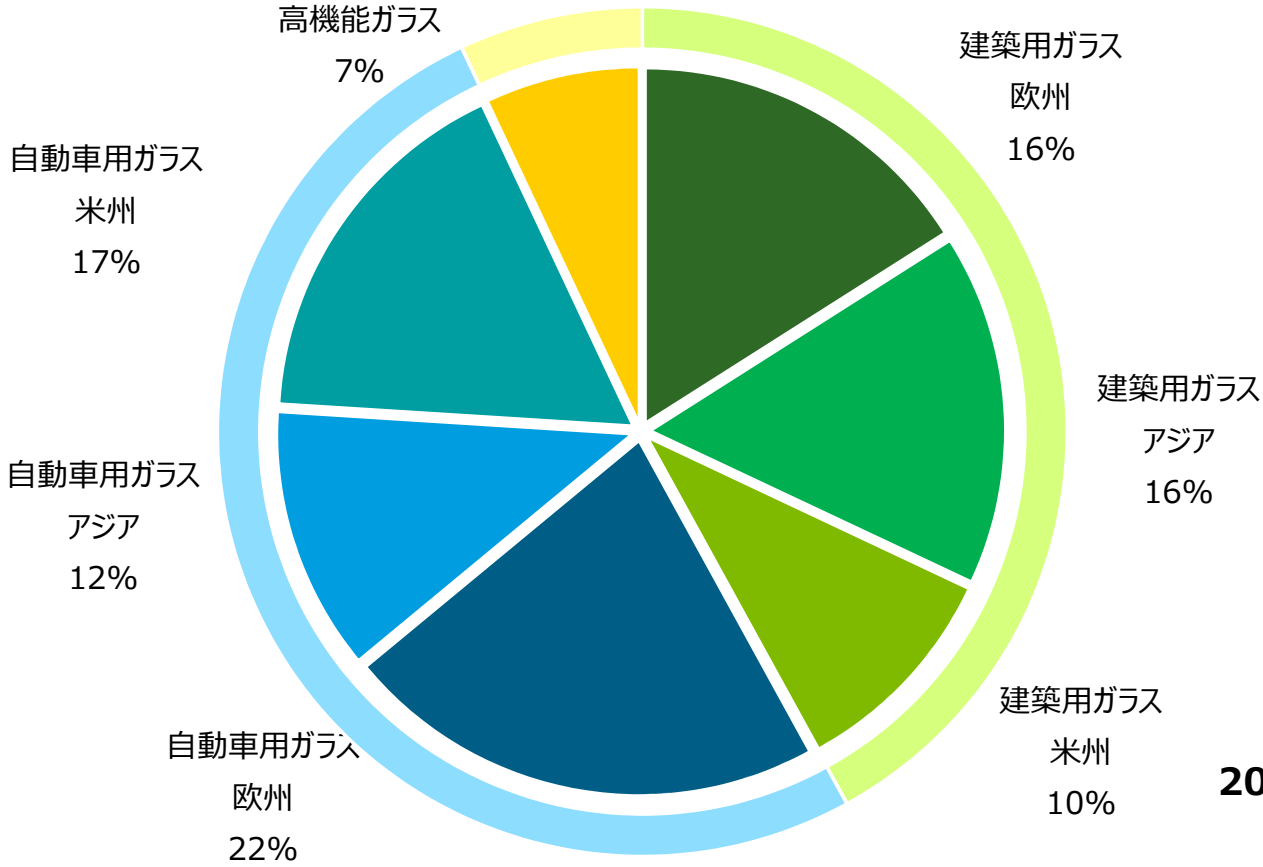
*1: IFRS16号適用による283億円の増加を含む

*2: 無形資産償却前営業利益

事業別売上高

グローバルに事業展開

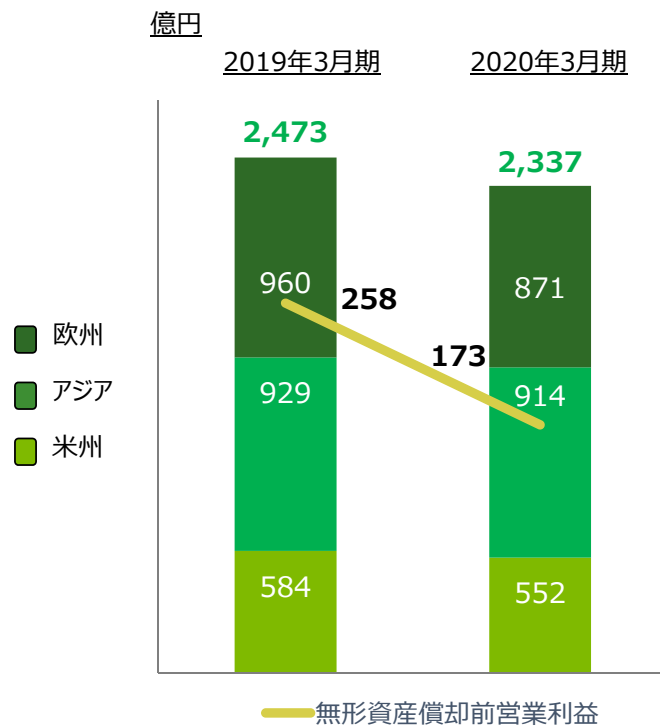
5,562億円



2020年3月期 通期

建築用ガラス事業 前年比

為替変動と事業環境の悪化、稼働率低下の影響を受ける。太陽電池パネル用ガラスは堅調



売上：主に為替影響、加えてQ3以降の事業環境悪化により減収

営業利益：過半が欧州での減益

欧州（減収・減益）

- 為替変動に加え、ガラス供給増によりQ3以降は価格下落。COVID-19影響で期末はさらに数量が減少し減収
- 売上減と稼働率低下で減益幅が拡大

アジア（減収・減益）

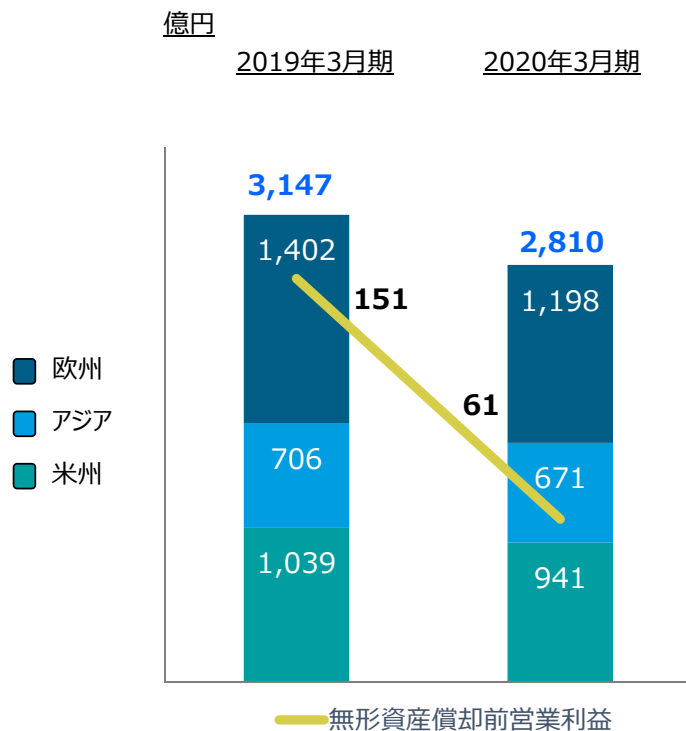
- 太陽電池パネル用ガラスの販売数量は伸長するも、東南アジアでの供給増による一般建築用ガラスの事業環境悪化で減収減益
- 日本の太陽電池パネル用ガラスの生産はベトナム新設窯へ移管

米州（減収・減益）

- 北米は太陽電池パネル用ガラスの出荷は増加。一方で一般建築用ガラスの供給増による価格下落あり、売上は横ばいを維持したが減益
- 南米は主に為替変動の影響で減収

自動車用ガラス事業 前年比

欧州を中心に自動車生産減少。Q4はCOVID-19による影響を大きく受ける



売上: 為替影響に加え、主に欧州、次いで北米の売上減により減収
営業利益: 大半が欧州の減益だが、Q3以降は日本も悪化

欧州 (減収・減益)

- 数量減で減収減益。COVID-19影響によるカーメーカーの休止で年度末にかけて自動車生産が大幅に減少

アジア (減収・減益)

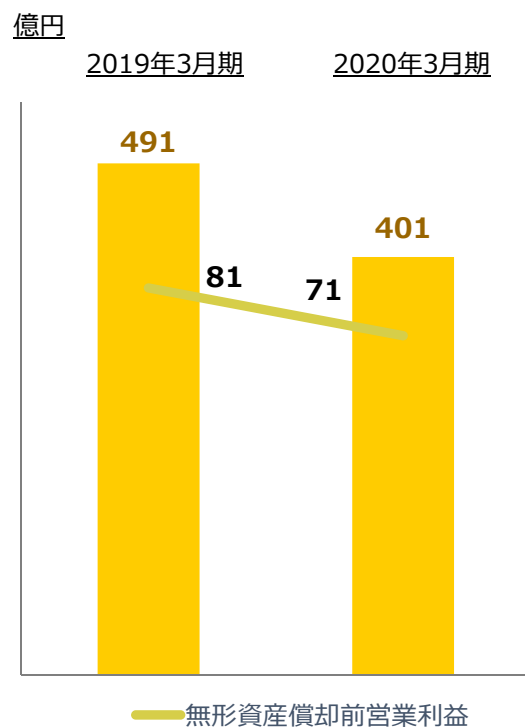
- 日本は上期の出荷堅調な一方、消費税率引き上げ後は減収
営業利益は素板コスト増加に加えてQ3以降の数量減により減益

米州 (減収・増益)

- 北米はCOVID-19影響で数量減少するも、生産効率改善により増益
- 南米の利益は前年並みで推移

高機能ガラス事業 前年比

一部の事業での厳しい事業環境の影響を受ける



高機能ガラス事業 (減収・減益)

- ファインガラスは、継続的なコスト削減や売上構成改善により増益
- プリンター用レンズは、需要軟化の影響を受け減少
- グラスコードは欧州自動車市場の影響を受け、年度末にかけて減少
- バッテリーセパレーターの業績は安定

新型コロナウイルス感染症の事業への影響

感染防止策を徹底。需要・規制に合わせ操業活動を低減。迅速な再開へ向けて準備

1. 従業員の安全を最優先に各国・地域の政府の方針に従い速やかに対応
 - 製造現場での感染防止対策、在宅勤務など
2. 操業状況：

自動車用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> • カーメーカーの稼働状況に合わせて対応中 • 顧客の再稼働予定（欧州：5月中旬、北米：5月末、南米：6月）に合わせ、安全対策を実施した上で再立ち上げ準備中 • 日本・中国は稼働率を落として操業中
建築用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> • フロートラインは自動車用ガラス向けを含め、各地で稼働調整実施中 欧州：一部の窯でホットホールド、その他は稼働率を落として生産 北米：一般建築用は稼働調整だが、ソーラー用はフル生産 南米：1窯を除き、5月に通常生産再開 日本・アジア：一部の窯で生産調整実施 • 加工ラインは操業を継続
高機能ガラス	<ul style="list-style-type: none"> • 自動車関連製品など低稼働の分野はあるが操業を維持
グループ	<ul style="list-style-type: none"> • 原燃料材料の調達に大きな問題なし

新型コロナウイルス感染症の事業への影響

4月の単月売上が最大の減少（前年同月比△52%）、5月以降年度末にかけて各地の稼働再開により徐々に回復を想定

新型コロナウイルス感染症による売上高への影響（概算）

	2020年3月期第4四半期 （対業績予想）	2021年3月期第1四半期 見通し（対前年実績）
自動車用ガラス	△10%	△50~60%
建築用ガラス	△3%	△30~40%
高機能ガラス	ほぼ予想通り	△10~20%
グループ合計	△7%	△40~50%

2021年3月期の見通し

業績予想開示は当面留保。流動性を確保しながら、現金支出最小化・追加改善施策に取り組み

2021年3月期通期業績予想

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を見極め、可及的速やかに発表予定

当面の流動性は確保済

- ・ 3月末の現預金残 436億円、未使用融資枠残 655億円
- ・ 追加の流動性資金の調達に向けて協議中

現金支出の最小化とともに、追加改善施策に取り組み

- ・ 重要案件を除き、可能な限り投資を凍結（アルゼンチンの新設も凍結）
- ・ 稼働調整の最適化により原燃料節減・レイオフ実施。公的補助金も利用
- ・ 役員報酬返上も含め、支出・コスト削減を徹底
- ・ ノンコア資産売却や運転資本改善施策は継続検討、実施
- ・ 千葉・マレーシアなどの設備休止による固定費削減効果、加えて堅調なソーラー需要にも期待
- ・ 追加施策の迅速な実施に向けて準備中

今後を見据えてのアクション

1. 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題
 - 既存事業のコスト構造の変革、VA戦略の加速により早急に収益力の改善を行う
 - 成長分野および新規事業分野の拡充を図り、早期の収益貢献を実現する
 - 合わせて、間接経費の削減、投資抑制、ノンコア事業・資産の売却により、有利子負債の削減を図る
 - 以上の施策により、持続可能な当期利益とキャッシュを生み出す体質を回復する

2. 中期的には、アセットライトで景気変動に強い事業体質への構造変革を進める
 - 「コロナ後の世界」を見据え、継続・拡大させる事業と見直す事業を明確にし、事業構成を変えていく
(健康、衛生、環境などにかかわる価値をより重視。太陽光・熱発電、省エネ、抗菌・抗ウイルス、遺伝子検査、テレワーク、カメラ、センサー、情報通信などの分野でのガラスのニーズ拡大に対応)
 - アセットライトなコスト構造、マーケットオリエンテッドな商品開発・販売体制を構築する
 - ICT（情報通信技術）を活用し、リーンでアジャイルな組織を目指す

3. 新中期経営計画は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響を見極め、上記方針を織り込んだ上で公表予定

まとめ

2020年3月期

- 為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、第4四半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受ける一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
- 建築用ガラス事業（アジア）の収益改善施策として、千葉およびマレーシアのフロート窯（各1基）休止を決定
- のれん減損等の個別開示項目費用の計上により、修正予想対比赤字が拡大
- 期末配当は無配と決定

2021年3月期

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けているが、5月以降は徐々に回復を想定。感染防止策を徹底しながら迅速な再開へ向けて準備
- 当面の流動性は確保。追加の流動性資金の調達に向けて協議中
- 現金支出の最小化とともに、追加改善施策に取り組み
- 2021年3月期業績予想は、新型コロナウイルス感染症の影響を見極め、可及的速やかに発表予定

中期経営計画

- 「コロナ後の世界」の変化を見据え、中期経営計画は再検討後、時期を見極め発表予定
- 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題。中期的にはアセットライトな事業体質への変革

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料

- 連結損益計算書（第4四半期 3ヶ月）
- 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 連結貸借対照表
- 為替レート等
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 2019年11月～2020年4月 主なニュースリリース

連結損益計算書

(第4四半期 3ヶ月)



(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 修正予想 (Q3決算時)	2020年3月期 実績	前年比 増減	予想比 増減
売上高	1,534	1,342	1,304	(230)	(38)
無形資産償却前営業利益	116	36	36	(80)	0
償却費 *	(4)	(6)	(4)	0	2
営業利益	112	30	32	(80)	2
個別開示項目	(38)	(26)	(196)	(158)	(170)
金融費用 (純額)	(31)	(35)	(23)	8	12
持分法による投資損益	13	8	(1)	(14)	(9)
税引前利益/(損失)	56	(23)	(188)	(244)	(165)
当期利益/(損失)	30	(39)	(194)	(224)	(155)
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	28	(42)	(201)	(229)	(159)
EBITDA	180	-	118	(62)	-

*: ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

事業部門別・地域別売上高

2019年3月期通期との比較



単位：億円	第4四半期 (1月-3月：3ヶ月)			通期累計 (4月-3月：12ヶ月)		
	2019年3月期	2020年3月期	増減	2019年3月期	2020年3月期	増減
建築用ガラス事業	606	536	(70)	2,473	2,337	(136)
欧州	233	208	(25)	960	871	(89)
アジア	231	197	(34)	929	914	(15)
米州	142	131	(11)	584	552	(32)
自動車用ガラス事業	797	664	(133)	3,147	2,810	(337)
欧州	355	291	(64)	1,402	1,198	(204)
アジア	183	160	(23)	706	671	(35)
米州	259	213	(46)	1,039	941	(98)
高機能ガラス事業	124	99	(25)	491	401	(90)
欧州	23	20	(3)	81	71	(10)
アジア	97	77	(20)	395	317	(78)
米州	4	2	(2)	15	13	(2)
その他	7	5	(2)	17	14	(3)
合計	1,534	1,304	(230)	6,128	5,562	(566)

事業部門別・地域別 償却前営業利益*

2019年3月期通期との比較



単位：億円	第4四半期 (1月-3月：3ヶ月)			通期累計 (4月-3月：12ヶ月)		
	2019年3月期	2020年3月期	増減	2019年3月期	2020年3月期	増減
建築用ガラス事業	75	33	(42)	258	173	(85)
自動車用ガラス事業	60	8	(52)	151	61	(90)
高機能ガラス事業	16	17	1	81	71	(10)
その他	(35)	(22)	13	(102)	(75)	27
合計	116	36	(80)	388	230	(158)
欧州	61	19	(42)	186	85	(101)
アジア	54	21	(33)	198	131	(67)
米州	36	18	(18)	106	89	(17)
その他	(35)	(22)	13	(102)	(75)	27
合計	116	36	(80)	388	230	(158)

*: 無形資産償却前営業利益

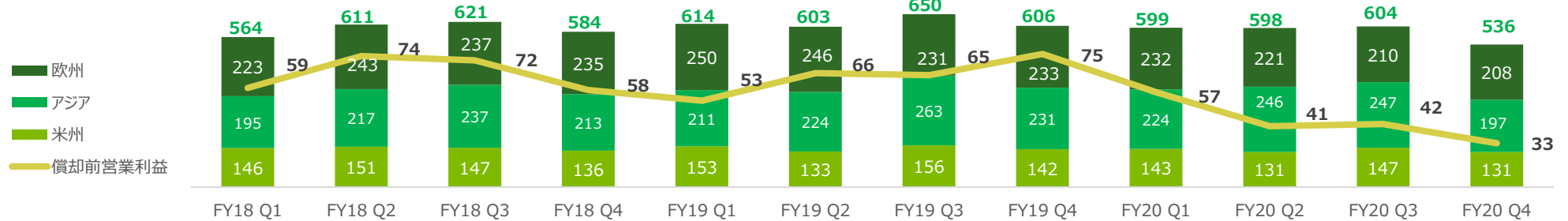
事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益*

四半期別推移



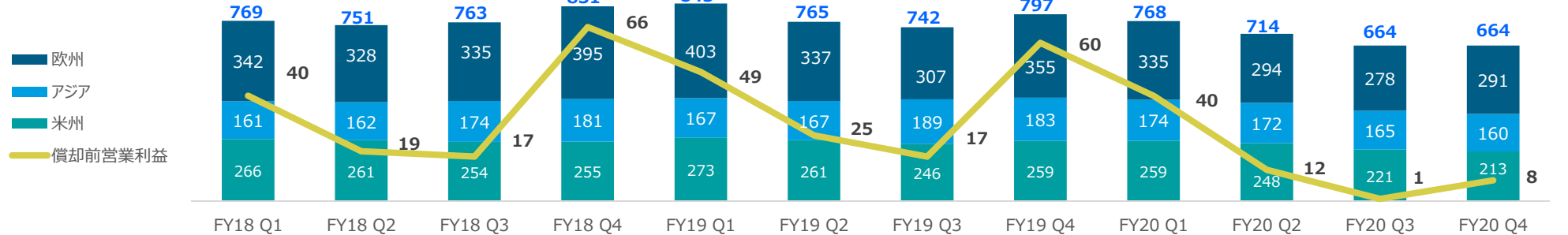
建築用ガラス事業

単位：億円



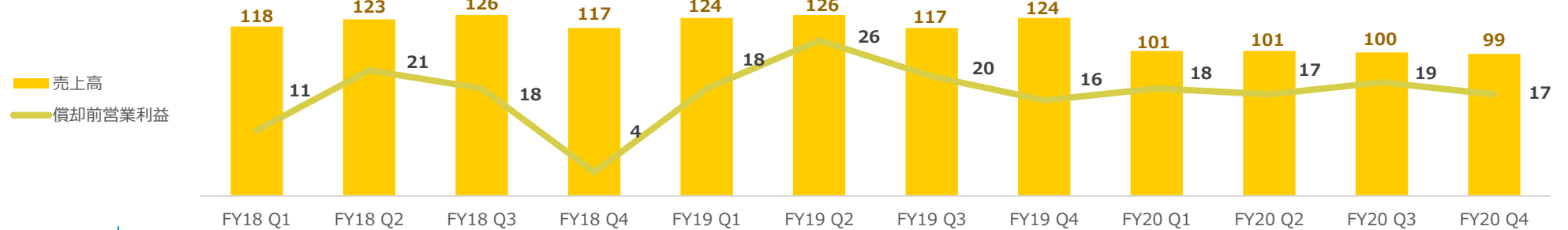
自動車用ガラス事業

単位：億円



高性能ガラス事業

単位：億円



*: 無形資産償却前営業利益

連結貸借対照表

単位：億円

	2019年3月末	2020年3月末	増減
資産	7,619	7,652	33
非流動資産	5,163	5,411	248
のれん・無形資産	1,611	1,386	(225)
有形固定資産	2,415	2,945	530
その他	1,137	1,080	(57)
流動資産	2,456	2,241	(215)
現金及び現金同等物	524	436	(88)
その他	1,932	1,805	(127)
負債	6,294	6,770	476
流動負債	1,930	2,004	74
金融負債	422	587	165
その他	1,508	1,417	(91)
非流動負債	4,364	4,766	402
金融負債	3,293	3,763	470
その他	1,071	1,003	(68)
資本	1,325	882	(443)
親会社の所有に帰属する持分	1,238	736	(502)
非支配持分	87	146	59
負債及び資本	7,619	7,652	33

為替レート等



期中平均レート

	FY2018				FY2019				FY2020			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	142	144	146	147	149	147	146	146	141	137	138	138
ユーロ	122	126	128	130	131	130	129	129	124	121	121	121
米ドル	111	112	111	111	110	111	111	111	109	109	109	109
ブラジル・リアル	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	27.6	27.2	26.4
アルゼンチン・ペソ	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	-	-	-	-	-	-	-

為替感応度

他の条件に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の増加（減少）額

(億円)	FY2019	FY2020
資本	(33.0)	(31.0)
当期利益/(損失)	(2.0)	1.0

期末レート

	FY2018				FY2019				FY2020			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	146	151	152	150	145	148	141	144	137	133	144	133
ユーロ	128	132	136	132	128	132	127	124	123	118	122	119
米ドル	112	113	113	106	111	113	111	111	108	108	109	108
ブラジル・リアル	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	26.0	27.1	20.8
アルゼンチン・ペソ	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	1.88	1.82	1.68

減価償却費・資本的支出・研究開発費

単位：億円

	<u>2019年3月期</u>	<u>2020年3月期</u>
減価償却費	279	348
資本的支出（無形資産を含む）		
通常投資	271	257
戦略投資、他	51	413
合計	322	670
研究開発費		
建築用ガラス事業	26	27
自動車用ガラス事業	30	26
高機能ガラス事業	8	9
その他	30	28
合計	94	90

2019年11月～2020年4月 主なニュースリリース



2019年12月24日	子育てサポート企業として「プラチナくるみん」認定を取得
2020年1月6日	「健康経営宣言」について
2020年1月30日	ベトナムにおける太陽電池パネル用ガラス製造設備の改修完了について
2020年2月5日	高透過ガラス「オプティホワイト®」をアーティゾン美術館が採用
2020年2月25日	瞬間調光ガラスUMU(ウム)が量産国産車に初採用
2020年2月27日	水素エネルギーによるガラス製造、世界初の実証実験へ
2020年2月28日	近鉄の新型特急「ひのとり」先頭車両に当社ガラスが採用
2020年3月31日	個別開示項目費用の計上および配当予想の修正に関するお知らせ
2020年4月30日	取締役及び執行役の報酬の自主返上について
2020年4月30日	2020年3月期決算発表の延期、第154期定時株主総会の議決権の基準日設定および新型コロナウイルス感染拡大による影響に関するお知らせ

NSG

GROUP